

## 平成 28 年度 全国開拓青年・女性研修会 in 宮崎 開催結果（概要）

平成 28 年 11 月 15 日から 17 日にかけて、開拓中央三団体（全日本開拓者連盟、全国開拓農業協同組合連合会、全国開拓振興協会）の共催により、「平成 28 年度（第 36 回）全国開拓青年・女性研修会 in 宮崎」を開催しました。

初日の 11 月 15 日は、宮崎市青島「ANA ホリディ・イン リゾート」にて、宮崎県農政水産部 畜産新生推進局 家畜防疫対策課 防疫指導担当主査の大山えり香氏、宮崎大学 地域資源創成学部 教授の撫（なで）年浩氏による講演会を開催しました。

第 1 部の講演では、「防ごう口蹄疫・守ろう日本美観」と題した口蹄疫 DVD（全国開拓農業協同組合連合会作成、当協会後援）を視聴した後、大山氏に「宮崎県における家畜防疫対策の取組について」と題し講演いただきました。大山氏は県の防疫指導をされており、平成 22 年に発生した口蹄疫が同年 8 月に終息するまでの非常事態下での必死の対応経緯を踏まえ、以後の様々な防疫措置について具体的対策を説明され、全国の畜産農家へ防疫の重要性を再度訴えられました。



防疫体制の強化については、「水際防疫」「地域防疫」「農場防疫」「迅速な防疫措置」の 4 つ

の柱が重要で、各農家が口蹄疫などの家畜伝染病の発生予防・まん延防止に積極的に取り組むことが重要と力説されました。



第 2 部は、撫年浩氏が「中山間地域における農業」と題し、宮崎県における農業実態を踏まえ、各業種毎の課題や将来へ向けた展望・取組みについて講演されました。

主力である畜産（肉牛、養豚、養鶏）をはじめ野菜（きゅうり、ピーマン他）・稲作・花卉栽培（スイートピー他）・林業（杉、乾椎茸）や中山間地農業における産地事情を踏まえ、今後の方向性について説明され、これら各業種が地域内資源循環で相互に連携できることが産業の維持・発展につながり、地域存続への対策ともなることの見解を示されました。

さらに、畜産で発生する堆肥の利用については、耕畜連携が潤沢に可能な場合と中山間地で耕作地が少ない地域での対応（牛舎への戻し堆肥など）、また県内畜産業の規模に対し、耕地面積が少なく堆肥の過剰投与による地下水への影響など課題や今後の取組みについても解説されました。

最後に、中山間地農業については、産業界、自治体、大学、金融機関等と連携しながら活性

化に努めていきたいと意気込みを示されました。



〔西都原考古博物館〕

翌日の 16 日は、高鍋町の農業科学公園内にある口蹄疫メモリアルセンターを視察した後、都農町のワイナリー工場を見学し、午後は、西都市の西都原考古博物館と同古墳群を視察しました。



本研修会には全国から総勢 90 名の開拓関係者が集まり、開拓者間の交流も図られ、大盛況のうちに終了することができました。



〔口蹄疫メモリアルセンター〕